

サティヤ サイ女子大学「バーラタ文化と霊性」
開講式におけるババの御講話

女性——その至高の役割

ここは、世界中で名声を得た偉人たちを生んだ、母なる国
ここは、西洋の兵士を追い出して自由を得た、苦闘の国
ここは、学僧たちの卓越性の偉大さと名声を示した、バーラタ〔インド〕の国
ここは、音楽と文学と科学的探究において理智の力を物語る、神の国
豊かな美術を有する、かくのごとき素晴らしいバーラタの国に生まれたのだから、
おお、学生たちよ、バーラタの正義という富を守るのは、ひとえにあなた方の義務
(テルグ語の詩)

今日は、「私たちの大学におけるバーラタ文化と霊性」という講義の開講式ということで、私たちはここに集まっています。まず第一に、私たちはバーラタ文化とは何かということを知るべきです。バーラタ文化は太古から脈打ってきたものです。バーラタ文化はつねに新鮮です。なぜなら、バーラタ文化は永遠の真理を基盤としているからです。バーラタ文化は人間性と結びついており、人間の心を鼓舞する言葉を基盤としています。バーラタ文化は、真理と純粹意識と至福という姿をもつ、遍在なる、全能にして至高の魂に、すべての行為を捧げるべしと、謳っています。さらには、バクティと献身、恭順と謙遜の精神をもって、すべての行為を行わなければいけないとも説いています。あらゆる芸術的才能は神に由来するものであり、それを人が再び神に捧げて、初めて総合的な発展が可能となります。

「バー」は神を意味します。「ラティ」は愛を意味します。ゆえに、「バーラティーヤ」(バーラタ人)とは、「神への愛をもつ者」を意味します。その愛は、すべての行為、あらゆる気晴らしを、神の偉大さを意識しながら行うことを人に促します。その愛は、兄弟姉妹にほかならない万人への愛と慈悲を育てます。その愛によって、人は他人のあら探しをするよりも自分の欠点に気づくことができるようになります。この愛は、人に、同じ本性をもつすべての生類に付随する幸不幸を自分のものと見なすようにさせます。これほど神聖な愛を授かっている人は、あらゆる生き物、あらゆる物、あらゆる場所に、神を知覚することができるようになるでしょう。それほどの人には、自然界のすべてが幸福を差し出してくるでしょう！

注意深く文化を育てなさい

この大学で、あなた方は神の偉大さと寛大さを徹底的に学ばなければいけません。これ

は、あなた方全員が知らなければならず、年長者たちが教えなければならない、一つの側面です。一般的に、多くの学生は、この計り知れないほど貴重な文化的富を吸収することなく、学びを終えてしまいます。私は、古代のリシ〔聖賢〕たちが保持してきた秘奥を所定の学課と共に教えることを決意した皆さんの先生方を見て、とても嬉しく思います。

今日、私たちはバーラタ文化の講義の開講を祝っています。文化は、文化という火で人間の心という金を溶かし、純化し、輝かせます。私たちの文化は、人間から動物的性質を排除し、人間に時間のすべてを内なる自己を悟る旅に費やすようにさせます。文化は望まれていない雑草を抜き、良い種を撒くことを伴います。このプロセスは子供が生まれた瞬間から始まります。この種の教育は、子供が幼稚園に入ってからすぐの段階から、大学の段階まで続けられなければなりません。私たちの大学は、良いしつけ、気高い理想、真正な行いにおいて、理想的な手本を示さなければなりません。あなた方は若い時に各家庭で文化的な側面を身につけます。続いて、社会からそれを学びます。それはまた、友人たちから習うことも可能です。それらはすべて、あなた方がバーラタ文化を理解し、バーラタ文化から利を得ることに、たいへん貢献するものです。

母国とは、単なる地図でもなければ、名前の連なりでもありません。母国は、子守唄を唄って体と心を静め、目と魂に美しい光景を見させてくれる母のごときものです。母国は、育て、守る、母のごときものです。それはアートマ グニャーナ（魂の英知）という人生の至高の目的地へと向かう道を照らします。それは知識（人知）の限界について教えることによって、一人ひとりの子供にいくらかの幸福を与えています。

文化を守り、育てることは、女子の大学に不可欠な義務です。なぜなら、母性は神からの贈り物だからです。国の財産を作るのも、壊すのも、母親です。我が子にはっきりと2つの教訓、つまり、罪を恐れること、良い行いを愛すること、を教えるべきは母です。この2つの態度が身につくかどうかは、神への信心次第です。国の偉大さを知るには、その国の母たちについて学ばなければいけません。母たちは万人への愛と情を持っていますか？ 恐れと不安から解放されていますか？ 慈悲や善い人格といった善い性質を育ててきましたか？ もし、その文化の偉大さを知りたいければ、揺りかごで赤子を揺らし、赤子と遊び、赤子に教える母たちを、そして、赤子を愛する人々を、観察しなければいけません。

母親は、以上の責任を負わなければなりません。それらをベビーシッターやメイドの世話に任すべきではありません。子守や女中も、信仰深く、有能かも知れません。私はそういう人たちに反対しているわけではありません。けれども、ベビーシッターの世話で育った子供は、成長に不可欠な愛という肥料を欠いてしまうのです。健康をもたらしてくれる愛というビタミンを欠いてしまうのです。

心と体の健康を保ちなさい

家族同士の愛情が欠如しているために、神聖な愛という芳香が漂うべき家庭的な雰囲気

が徐々になくなりつつあります。

昨今では、多くの家で「祈りの部屋」を見なくなりました。たとえあっても、それはキッチンや片隅などにあって瞑想の役に立っていません。雇われ僧侶によって礼拝の儀式がなされているような有様です。かつて大いなるバクティによって建てられた大寺院は、今、誰からも注意を向けられずに、荒廃した状態のまま放置されています。バジャンも儀式も礼拝も忘れられています。バジャンや儀式や礼拝をしている人たちは物笑いの種になっています。

学生の皆さん！

この大学で、あなた方は、身体、心の健康、心の均衡、学識と技能を発達させなければいけません。健全な体には健全な心が不可欠です。私たちのインドラ・デーヴィーはメキシコからやって来ましたが、この点における鑑です！ 霊的な側面と身体的側面を身に付けるために、彼女はこの国にやって来ました。そして、ヨーガをしました。彼女を見てごらんください。年齢にもかかわらず〔当時 69 歳〕、どれほど朗らかで、幸せで、活力にあふれていることか！

浮世を漂っている人を支えることができるのは、アートマ ヴィッディヤー（アートマに関連する教育）だけです。それゆえ、私たちの生活様式は解脱（モークシャ）を得るのに役立つことができるのです。これはバーラタという国の無類なる特質です。そのために、私たちの国は全人類のグル（導師）として認められてきたのです。今、人々は忌み、政権の座にある人たちは浮かない顔をしているかもしれませんが、このバーラタの国は、定められた役割を果たさなければいけません。

純粋なアートマには、露のしずくの中にも、星の中にも、原子の中にも、そして、科学者の中にも、神を認識することが可能です。甘味は舌だけにわかるものですが、それは舌が健康な時に限ります。同様に、純粋な意識だけが、神の無上なることと偉大さを認めることができます。つねにソーハムの原理（神は私であり、私は神であること）を黙想してください。そうするうちに、「神と私」という二元性は溶けてなくなり、神だけが残るでしょう。

学生の皆さん！

神を想うこと、礼拝といった行為に没頭することに、自分の時間を使うべきです。そうして初めて、良い点数を取ることができるでしょう。私は、あなた方がそのようにして良い点数を取ったときにだけ、あなた方の努力を高く評価することができます。私が、教授たちや校長の点数や所見に基づいてあなた方を評価することはありません。

私は、皆さんが今日聞いたことをつねに黙想し、知恵を深め、両親や他者に奉仕の手を差し伸べ、心を清め、幸せを広げ、幸せを受け取り、さらには、隣人から見習われるに値

する理想的な人生を送ることができますように、という祝福の言葉をもって、この講話を終えることにします。

1968年9月5日
サティヤ サイ女子大学「バーラタ文化と霊性」開講式
アナンタプル市
Women's Role C2

* インドラ・デーヴィー（1899—2002）

スウェーデン人の父とロシア人の母の間に生まれる。15歳の頃からインドに興味をもち1927年に渡印しヨーガを学ぶ。また、インド名を得て女優としても活躍。60年代から70年代にはロサンゼルスやメキシコに住みつつババのもとを訪れ教えを仰ぐ。1982年にアルゼンチンに移住。ブエノスアイレスで102歳の長寿をまっとうする。